資料４

**■内容**

健康寿命延伸に向け、総合的・効果的な健康づくり施策を進めるため、行政や多様な主体（市町村、医療保険者、民間企業・団体、大学等）が連携・協働した取組みを推進する。

**■プロジェクトの重点方向**

|  |  |
| --- | --- |
| **若い世代** | **（重点方向）『ヘルスリテラシーの習得』**  ⇒子どもの頃から健康の大切さを学び、ヘルスリテラシーを習得することで、食生活や運動など、健康的な生活習慣を形成する |
| **働く世代** | **（重点方向）『けんしん（健診・検診）の受診』**  ⇒生活習慣病の予防・早期発見・重症化予防のために、特定健診やがん検診  などを定期的に受診し、生活習慣を改善する |
| **高齢者** | **（重点方向）『フレイルの予防』**  ⇒高齢になっても健康的な生活が送れるよう、運動や食生活の改善等を通じて  フレイルを予防する |

**■プロジェクトの具体的内容(平成30年度)**

✧生活習慣病の発症予防には、生涯を通じた継続的な健康づくりの実践が必要

✧若い世代からのヘルスリテラシー(※健康情報を活用する力)の習得、働く世代のけんしん受診、

高齢者のフレイル（※高齢になって心身の活力が落ちた状態）予防など、ライフステージに応じた

取組みを実施

主要事業１

健康医療部　保健医療室　健康づくり課

担当者　和田、犬伏、寺岡　内線2529

[kenkodukuri-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kenkodukuri-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp)

≪拡充≫

**第２期 健康寿命延伸プロジェクト事業費【知事重点】**

～府民の『健康寿命の延伸』と『健康格差の縮小』をめざす～



◇生活習慣病の発症予防に向けて、生涯を通じた継続的な健康づくりの実践を推進

◇若い世代から働く世代、高齢者までライフステージに応じ、重点方向に沿った取組みを推進

（重点方向）

　▸若い世代：『ヘルスリテラシー（＊健康情報を活用する力）の習得』

　▸働く世代：『けんしん（健診・検診）の受診』

　▸高齢者：『フレイル（＊高齢になって心身の活力が落ちた状態）の予防』

◇市町村や多様な主体（医療保険者、民間企業・団体、大学等）との連携・

協働のもと、総合的・効果的な健康づくり施策を推進

平成30年度当初予算額：9,104万3千円

**■目的**

「第3次大阪府健康増進計画（平成30(2018)年度～平成35(2023)年度）」に基づき、府民の健康寿命の延伸・健康格差の縮小をめざす。

**■内容**

**■プロジェクトの具体的内容（平成30年度）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **若い世代** | |  |  | | --- | --- | | 健康キャンパス・  プロジェクトの推進 | ・大学と連携した学生向けの健康セミナー（食生活・運動・  喫煙等）の開催  ・女子学生を対象にした、検診車派遣による子宮頸がん検診の実施や女性の健康セミナーを開催 | |
| **働く世代　　　　　　　高齢者** | |  |  | | --- | --- | | 中小企業の健康経営の  推進 | ・府内中小企業を対象にした健康経営の取組み支援や、健康  経営セミナー、健康づくりアワードを実施 | | 女性の健活セミナー実施 | ・働く女性を対象に、女性の健康課題（乳がん等）をテーマ  にしたセミナーを開催 | | 子育て女性の禁煙支援 | ・乳幼児歯科健診等の場を活用し、子育て女性の禁煙を支援 | | 「乳がん検診」受診率向上モデル事業 | ・商業施設や市町村と連携して検診車を派遣し、気軽に乳が  ん検診を受診できる機会を創出 | | 「健康格差」の解決プログラム促進事業 | ・府内市町村における健康格差の縮小に向けて、モデル市町  村と連携し、分野別（特定健診受診、保健指導、フレイル予防）のプログラムを開発・実証　　※別紙参照 | |
| **全世代** | |  |  | | --- | --- | | 府民の健康づくり  機運醸成事業 | ・各種イベント等との連携によるキャンペーンなどを実施  し、健康づくりの機運醸成を推進 | |

主要事業１

**■内容**

健康寿命延伸に向け、総合的・効果的な健康づくり施策を進めるため、行政や多様な主体（市町村、医療保険者、民間企業・団体、大学等）が連携・協働した取組みを推進する。

**■プロジェクトの重点方向**

|  |  |
| --- | --- |
| **若い世代** | **（重点方向）『ヘルスリテラシーの習得』**  ⇒子どもの頃から健康の大切さを学び、ヘルスリテラシーを習得することで、食生活や運動など、健康的な生活習慣を形成する |
| **働く世代** | **（重点方向）『けんしん（健診・検診）の受診』**  ⇒生活習慣病の予防・早期発見・重症化予防のために、特定健診やがん検診  などを定期的に受診し、生活習慣を改善する |
| **高齢者** | **（重点方向）『フレイルの予防』**  ⇒高齢になっても健康的な生活が送れるよう、運動や食生活の改善等を通じて  フレイルを予防する |

**■プロジェクトの具体的内容(平成30年度)**

✧生活習慣病の発症予防には、生涯を通じた継続的な健康づくりの実践が必要

✧若い世代からのヘルスリテラシー(※健康情報を活用する力)の習得、働く世代のけんしん受診、

高齢者のフレイル（※高齢になって心身の活力が落ちた状態）予防など、ライフステージに応じた

取組みを実施

主要事業１

**“３分野における取組みモデル“を、府内市町村へ展開**

**【別紙】**

**■「健康格差」の解決プログラム促進事業**

府内市町村の健康格差（健康寿命の差）の縮小に向けて、モデル市町村との連携のもと、国保被保険者を対象に「特定健診の受診」、「保健指導の実施」、「フレイル（高齢になって心身の活力が落ちた状態）の予防（運動・栄養改善）」の３分野において、改善プログラムの開発・効果検証を実施。取組みモデルを府内市町村へ拡げていく。

**【特定健診の受診】　　　 【保健指導の実施】　 　　 【フレイルの予防】**

**【参考】**

**＊府の健康寿命：男性70.46歳（43位）、女性72.49歳（47位） ＊平成25年**

**＊府内市町村の健康格差（健康寿命の差）：男性4.6歳、女性4.0歳 ＊平成27年**

**課題解決に向けた取組みが必要！！**

**モデル市町村と連携した「健康格差」の解決プログラム促進事業の実施**

**（３分野におけるプログラムの開発・効果検証を実施）**

**特定健診受診率の向上、特定保健指導実施率の向上、生活習慣の改善をめざす！**

**フレイル予防のための**

**生活習慣改善プログラム**

市町村、国立健康・栄養研究所と連携し、働く世代から実践できる効果的な「生活習慣（運動・食生活など）改善プログラム」を開発

市町村、大学等研究機関と連携し、特定保健指導を効果的・効率的に実施するため、「保健指導プログラム」を開発

**特定保健指導実施率向上プログラム**

**特定健診受診率向上**

**プログラム**

市町村、府医師会、健診機関と連携し、特定健診の未受診者に対し受診を働きかける「継続受診勧奨プログラム」を開発

**（課題）**

**市町村国保の特定保健指導は、約２割が途中で中断するなど実施率が低い**

**（課題）**

**高齢期のフレイルの予防に向けて筋力低下が始まる前(働く世代)からの取組みが必要**

**（課題）**

**市町村国保の特定健診を受診した人の約３割が翌年度の健診を未受診**